



絵や模様を描いた後、ふちを曲げて皿の形を作る園児ら

思い思いの気持ちを形に**■陶芸教室／勝間田保育園**

勝間田保育園は12月9日、悠風工房の長谷川研二さん（島田市）を迎えて、陶芸教室を開催し、5歳児19人が参加しました。

教室は今回が初めての開催。園児らは、焼き物用の粘土を使い、オリジナルの皿作りに取り組みました。手で粘土を平たく伸ばした後、花や動物が描かれたスタンプや棒を使い、自由に皿に絵や模様を描きました。

出来上がった皿は、後日長谷川さんの工房で焼かれ、園児らの卒園記念品になります。

東日本大震災の教訓を生かそう**■地域防災訓練**

地域防災訓練が12月4日、市内各地で行われ、18,810人の市民が参加しました。

訓練は、東日本大震災の教訓を市民一人一人が東海地震対策につなげるため、自らの命を守る「自助」と自らの地域を守る「共助」の取り組みを総点検することを目的に実施されました。

地震発生のサイレンの後、各自主防災組織は高台までの津波避難訓練や消火訓練、炊き出し訓練など実践的な訓練を実施し、市民は真剣な表情で参加しました。



登校中に地震が発生した想定で避難する地頭方小の児童ら

宝くじ助成で祭りの備品などを整備**■財団法人自治総合センターCommunity助成事業**

静波12丁目町内会では6月から11月にかけて、祭典で使用する備品を整備しました。

整備した備品は、大太鼓、大太鼓台、小太鼓、小太鼓台、発電機など5品目です。

これは財団法人自治総合センターが行う、宝くじの社会貢献広報事業を活用したもので

この事業により、子どもからお年寄りまで楽しめる祭典でのおはやしが継続され、伝統文化の保存継承を深め、地域に密着したコミュニティ活動の活性化が期待されます。



整備した大太鼓1張と小太鼓3張（台含む）などの備品

**梅太郎博士ピタミン発見100周年****■梅っ子ピタミンフェスタ in地頭方**

オリザニン（ビタミンB1）を発見した鈴木梅太郎博士を顕彰する梅っ子ピタミンフェスタが、12月13日のピタミンの日を前にした12月10日、地頭方小学校で開かれました。児童や地域住民など約300人が参加し、学習成果の発表やピタミンに関する作文コンクールの表彰などが行われました。

ピタミン発見100周年を迎えた昨年は、11月25日に東京大学安田講堂で、「祝典・記念シンポジウム」が開かれるなど、本市出身の博士の功績があらためて見直された年となりました。

広報担当がどこにでも取材に行きます。

あなたの身近なホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

秘書広報課 ☎ (23) 0052 ✉ seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp

**空港使い交流促進****■中国宜興市友好訪日団歓迎式**

市は12月15日、相良史料館で中国江蘇省宜興市友好訪日団を迎え、歓迎式を執り行ないました。

11月、八木教育長をはじめとする訪中団が宜興市を訪れ、修学旅行生の派遣など、教育を通じた交流を呼び掛け、関係者の来市を要請していました。

訪日団は、夏曙希宜興市旅游局長をはじめ、教育局副局長、小学校長ら7人で、相良小学校の授業風景やさがらサンビーチ、塩作り体験施設などを視察しました。

歓迎式では、西原市長と旅游局長があいさつを交わし、今後、観光、教育などの分野で友好交流を進めることを確認しました。



宜興市の夏旅游局長（左）に記念品を手渡す西原市長

会員たちの笑顔が咲いた**■市花の会「花咲くしづおか」花いっぱいコンクール最優秀賞受賞報告**

市花の会（八木かよ子会長）が「花咲くしづおか」花いっぱいコンクール「職場・地域の部（面積200m²以上）」で最優秀賞を受賞しました。

同部門へは、県内の26団体から応募があり、同会の受賞は2回目となります。

11月30日、八木会長をはじめとする会員3人が市役所棟原庁舎を訪れ、西原市長へ受賞を報告しました。八木会長は、「会員一人一人が一生懸命に花壇作りに取り組んだ成果。今後もこの受賞を励みに、一層頑張りたい」と話しました。



市長へ喜びの報告を行う八木会長ら

**海に転落した男性を救助****■感謝状贈呈式／吉田棟原消防署**

吉田棟原消防署（由中静雄消防長）は11月29日、海で溺れた人を救助した、細江地区在住の服部徳治さん、静岡市在住の鈴木隆之さんに感謝状を贈呈しました。

10月28日、静波海岸の西側堤防で海に転落した男性を服部さんが発見。サーフィンをしていた鈴木さんを呼び、他の男性らと協力しながら救助しました。服部さんは、「無我夢中で、一刻も早く通報した。無事に救助されて良かった」と安堵の表情を浮かべていました。